

生活環境学科のコース拡充について

牛田 智 武庫川女子大学 教授（生活環境学科長）

概要

生活環境学科は、2019年度入学生より、入学定員を35名増員するとともに、コースを再編し、3コース制から6コース制にして、広く学べるカリキュラムを採用した。そこには、生活環境学科が発足した1994年の理念が反映されている。ここでは、2019年度入学生を迎え、その前期が終了する時点において、生活環境学科のこれまでの振り返るとともに、6コース制のカリキュラムについて、その構想、概要などについて学科長の立場から述べる。

1. はじめに

武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科は、2019年度入学生より、入学定員をそれまでの130名から165名に増員するとともに、「生活デザインコース」、「アパレルコース」、「建築デザインコース」の3コース制であったのを、「被服学コース」、「環境デザインコース」、「まちづくりコース」の3コースを新たに追加した6コース制とするとともに、科目履修の仕組みを改め、各コースで深く学べるだけでなく、他のコースの科目や学科共通の科目を履修することで広く学べるようにした。2018年度には、その計画のもと学生募集を行い、2019年度入学生から、新たなカリキュラムをスタートさせた。生活環境学科の発足から25年目のことであり、また、武庫川学院の創立80周年、大学創設70周年の年でもあった。

2. 生活環境学科の発足

2-1 生活環境学科の前身

武庫川女子大学は、第2次大戦直後の新制大学発足の年である1949年に開学した。現在の生活環境学科の前身は、学芸学部生活科学科被服学専攻である。その後、1958年に学芸学部が廃止され、家政学部被服学科（食物学科との2学科体制）が発足した。当時の入学定員は40名であった。

被服学科は、定員を1983年には50名に、1991年には100名に増員し、併設の短大の被服科（1989年から生活造形学科に名称変更）とともに被服学教育に力を注いだ。その中で、従来の良妻賢母教育から、実社会で活躍できる知識と技術を身につけた卒業生の輩出を図った衣料管理士（通称：テキスタイルアドバイザー）教育の導入（1973年3月に第1期の衣料管理士が誕生）も行われた¹⁾。

2-2 生活環境学科設置の構想

平成に入った頃、本学の中で、家政学部の改革に関する検討が始まった。これは、情報化社会が急速に進む中、家庭生活においても情報が無視できない状況となったことから、生活情報学科の設置が構想されるとともに、家政学部として担ってきた衣食住の領域を、生活に関わるすべての環境にまで視野を拡大しようとするものであった。家政学部は、最も女子大学らしい学部ではあるが、女性の社会進出や生活の変化に対応すべく、学部名称を生活科学部などに変更する女子大学が多く見られるようになったこともあり、本学も家政学部の抜本的な改革が必要とのことから、様々な検討が学内で加えられ、新たな学部への転換の構想が決定された。

その構想をもとに、家政学部の改組転換を行って生活環境学部を設置する旨の申請を行い、1994年度入学生から、生活環境学部が発足し、生活環境学科（入学定員：100名）も誕生した。なお、生活環境学部は、食物栄養学科、生活情報学科（2003年度から情報メディア学科）から構成された3学科体制での発足であった（2006年度からは建築学科が加わり、4学科体制となった）。「生活環境」という、新しい時代を感じさせる名称を学部名に冠し、人間を中心に、その回りにひろがる衣から住までの環境、食物栄養を中心とした健康な生活を送る環境、情報を選択し利用する環境に関して、知識と知恵を生み出すのが「生活環境学」であるとし、家政学の充実が図られた形である。なお、生活環境学部は、1993年に国立の奈良女子大学が設置したが、私立大学としては本学が初であった。

2-3 生活環境学科の設置申請

生活環境学部の設置認可申請にあたっての、生活環境学科の構想（認可申請関係書類等から筆者が再構成）は次のようであった。この考え方は、現在にも引き継がれている。

いわゆる「豊かな社会」において、衣生活の関心は、「作る」ことから「いかに装うか」に移り、住生活においては、「寒暑を堪え忍ぶ」から「快適性」に移り、温湿度のみならず、色彩、採光、音響などを含めた住空間の総合的アメニティが重視されるようになった。このような中で、被服学や住居学を個別的に取り上げるのではなく、被服学科で行ってきた人間を取り巻く第一の環境である被服を出発点として、第二の環境としてのインテリア、さら

には、住居、都市空間と拡がる「生活環境」を総合的に研究する視点が必要である。そのための研究・教育には、いわゆる文系の学問と理系の学問が接触し、融合するような場の構築が求められる。

これらのことを踏まえて、カリキュラムは、被服の美的感性に関する領域、その理工学的知見に重点を置く領域、さらに、室内インテリアから都市空間に至る住環境領域に分かれた専門科目群で構成する。これらの習得により、学生は、美的感性を磨き、生活全般を総合的に眺める能力を磨くことができ、文系知識に詳しく、かつ理系の問題も理解でき、逆に理系の基礎知識をもって文系の問題が分かるような人材、スペシャリストというよりジェネラリストの立場から新しい生活環境の企画・設計に参画でき、豊かな生活をリードできる新しい人材の育成を目指す。

3. 生活環境学科の歩み

生活環境学科は、衣から住までの生活環境を広く学ぶということから、発足当初は、コースは設けず、カリキュラムは単一で、どの学生もすべての科目が履修できるようになっていた。その中で、2000年度入学生より、2年次後期から、「生活デザインコース」、「テキスタイルアドバイザーコース」、「建築デザインコース」の3つのコースに分かれて学ぶカリキュラムをスタートさせた。これは、一級建築士の受験資格の取得（要実務経験3年）を可能にするためには、資格に必要な科目で構成されたコースを設定する必要があったことが大きな理由ではあったが、この3コース制の導入は、入学当初は生活環境全般を学び、2年次後期からは、より専門的な内容をコースに分かれて習得できることにつながった。

生活環境学科が誕生する前の被服学科の時代には、専門性の高い衣料管理士の科目があったことから、3年次から「被服学コース」と「衣料管理コース」（のちに、「衣生活・住環境コース」と「テキスタイルアドバイザーコース」）に分かれた時間割になっていたが、生活環境学科にとってのコース制は、学科発足から6年後の2000年度からであった。コース制採用以降は、各コースの特徴を出して行こうという努力が為された。

これら3コースは、「生活デザインコース」を中核とし、「建築デザインコース」は一級建築士の受験資格取得を、「テキスタイルアドバイザーコース」は1級衣料管理士資格取得を目指すコースとの位置付けであった。なお、2005年度入学生からコース分けは2年次前期からとし、「テキスタイルアドバイザーコース」は「アパレルコース」に名称が変更された。また、生活環境学科の入学定員は、2000年度から100名に、2013年度からは130名に増員した。

4. 6コース制に向けての検討

近年、生活環境学科への志願状況は良好であった。当学科は、「生活環境」として、人間の身体に最も近い所にある環境であ

る衣服、その回りにある多様な生活財やインテリアや住空間、そして、住居・建築、それらが構成し、人々の生活が営まれている街や都市を学ぶ対象としている。これらは、女子学生にとって興味深い分野であると考えられる。また、生活環境学科は、1年次に広く学んだあと、2年次から3つのコースに分かれて専門性を高めるというカリキュラムになっており、コース別に入学するのではなく、入学後に進路を選択するということは、受験生も魅力的に感じているようである。3つのコースについては、次のように説明してきた。

生活デザインコース：生活に関する「調査」と「デザイン」をキーワードに、暮らしの文化を幅広く考えることを通して、生活の中の課題を発見し分析する力を身につけることができます。また、プロダクト、パッケージ、インテリアの3分野で魅力的なアイデアを形とともに提案する力を身につけることができます。

アパレルコース：アパレルに関して、感性と専門知識に裏付けされた豊富な商品知識を生かして活躍ができるよう、アパレルに関する知識や技能、デザイン力を身につけ、企画・造形面の素養を深めるとともに、服飾素材の品質や特性・加工など、衣服の機能性を高める知識も学びます。

建築デザインコース：いかに暮らすかの視点から、生活空間である住宅や公共施設から街、都市までの様々な空間と、それを支える仕組みについて、多角的な視点から学びます。その内容は、インテリアにおけるモノの配置や内装、建物の計画、構造、設備などの生活空間を維持する仕組み、街の計画や街づくりにまで及びます。

このような状況の中、生活環境学科の入学定員を増員するとともに、次のような構想のもと、コースを増やして学びの拡充を図ることについての検討が始まった。

- 1) 従来からカリキュラムに取り入れられていながらも、学ぶ内容について、コース名称に現れていなかったり、十分ではなかったりした分野について、コースを増やすことで拡充を図るとともに、そのキーワードをコース名称に冠することで、より具体的な学科の学びのイメージを表現する。
- 2) これまでは、3コースそれぞれのカリキュラムで運用されていたものを、コースの壁を低くして、履修の自由度を向上させ、学生の主体性を向上させるとともに、多様な人材の輩出を狙う。
- 3) 従来、3つのコースに分かれていた生活環境学科のカリキュラムを、他コースの科目の履修を容易にすることで科目の統合や整理が可能となり、カリキュラムのスリム化につながる。
- 4) コース専門の科目以外に、横断的な視点を養う学科共通の科目を設け、広い視野の学びを提供する。
- 5) コースを3コースから6コースに増やすにあたり、その内容を再編するとともに、学生は一つのコースに縛られるのではなく、6コースからメインコースとサブコースの2コースを選択し、多様な学びを実現する。

5. 6コース制の概要

5-1 6コースの特徴

生活環境学科の入学定員を130名から165名に増員するにあたり、これまでの受験者層を少し拡げるために、学ぶ領域の拡充が必要であることから、図1のように、コースをこれまでの3コースから6コースにすることとした。



図1 生活環境学科における6つのコース(2019年度入学生以降)

既存の「生活デザインコース」「アパレルコース」「建築デザインコース」も6コース制への移行とともに名称を変更することも検討されたが、結果的には、そのままの名称を残すことになった。

受験生への広報活動をするにあたってのコースの説明は次の通りとした。

被服学コース：繊維・染色・洗浄・衛生から、生産、消費に至る広範な分野を豊富な実験・実習を交えて学び、品質の選択眼や取り扱い方に関する能力を養います。

アパレルコース：ファッション産業を構成する多様な事項を学び、アパレル製品の企画・製造・市場などに関わる知識・技能を習得し、産業全体の素養を深めます。

生活デザインコース：家具、雑貨、カフェなど生活を豊かにする「モノ」や「空間」と、「ひと」との関係性を調査・企画・デザイン・プレゼンテーションする力を養います。

環境デザインコース：照明や冷暖房、人間工学的なキッチンなど身近な室内環境から、安全で快適な都市環境まで、環境をデザインする能力を習得します。

建築デザインコース：住宅を基点に様々な建築を芸術、工学を含めた多角的側面から学び、豊かな暮らしの基盤となる具体的な空間を提案できるデザイン力を習得します。

まちづくりコース：新たな時代のまちづくりに向けて地域の課題と資源を発見・分析しながら魅力ある「まち」を創造するための手法について多角的な視点から学びます。

5-2 コース分け

コース分けは、これまでの3コース制のときと同様、2年次からとし、1年次は学科基礎科目として、広い学びとコース選択につながる科目を開講することとした。

2年次から学生は、6コースの中からメインコースとサブコースの2コースを選択し、2領域の科目を履修しながら、自身の興味・関心に応じて、他コースの科目や学術的・横断的な視点を養う学科共通科目も履修する。衣料管理士や建築士の資格取得を目指す場合は、そのために適したコースの選択が必要となる。

1年次の最終段階において、学生はどのコースをメインコース、サブコースとするかの希望を提出することになるが、メインとサブの組み合わせは、30通り存在し、いずれも選ぶことができる。その中で、どの組み合わせが推奨されるかについて、「とてもおすすめ」および「おすすめ」の組み合わせを、入学当初から学生に示し、1年次の科目の学びの中で、自分に適した対象や方法を見出してもらうようにした。

メインコースに対し、サブコースをどう組み合わせるのが推奨されるのか、2019年度入学生に示した内容を次に示す。

被服学コース

このコースは被服学を広範に学ぶコースであり、被服に興味のある学生で、造形や制作を主として考えていないのであれば、「被服学コース」をメインに「アパレルコース」をサブコースとすることを「とてもおすすめ」としている。また、被服とは分野の近い「生活デザインコース」をサブコースとすることも「とてもおすすめ」としている。温熱などの衣環境を究めたい場合は「環境デザインコース」が、地域の繊維産業との関連や地域産業活性化の視点から「まちづくりコース」をサブコースとして「おすすめ」としている。

アパレルコース

「被服学コース」が、デザインに加え、アパレル製品の性能を理解することができる科学の面から学ぶことができ、アパレル産業で広く活躍できる力を身につけることができることからサブコースとして「とてもおすすめ」としている。アパレルの周辺領域を踏まえたアパレル企画にもつながる学びができる「生活デザインコース」、人々の生活を対象としたアパレル製品・店舗のあり方につながる「まちづくりコース」をサブコースとして「おすすめ」としている。

生活デザインコース

「モノ」と「空間」のデザインのために、環境工学や人間工学の観点が重要であることから「環境デザインコース」を、家具～インテリア～建築という空間全般にわたる知識をシームレスに習得することができることから「建築デザインコース」を、地域社会がかかえる課題をあぶりだしながら、企画・デザインしていく力を習得できることから「まちづくりコース」をサブコースとして「とてもおすすめ」としている。また、「アパレルコース」をサブコースにすることで、アパレル産

業に関わる「モノ」と「空間」を扱うための知識や技能が習得できるので、「おすすめ」としている。

環境デザインコース

「空間」や「モノ」の創作・制作に人間工学的な視点や心理評価の手法を習得することが役立つことから「生活デザインコース」を、快適な空間、照明環境や温熱環境、人間工学的に配慮された室内空間につながる学びができることから「建築デザインコース」を、あらゆる人が暮らしやすいまちづくりや環境リスクの少ない住環境の計画と結びつけることができることから「まちづくりコース」をサブコースとして「とてもおすすめ」としている。

建築デザインコース

家具などのインテリアエレメントや商空間に関する知識が習得でき、魅力的な生活空間をデザインする能力につながることから「生活デザインコース」を、光・温熱環境、人間工学、福祉に関することが習得でき、健康で快適で機能的な空間をデザインする能力を習得できることから「環境デザインコース」を、地域のコミュニティや社会問題に関することを学び、多機能な建築や地域の活性に貢献する空間をデザインする能力につながることから、「まちづくりコース」をサブコースとして「とてもおすすめ」としている。

まちづくりコース

「モノ」や「空間」のデザインと「ひと」や「生活」の調査をまちづくりと結びつけ、地域社会が抱える様々な課題の解決につながることから「生活デザインコース」を、環境リスクの少ない住環境や居住者にも訪問者にも魅力ある景観計画を学ぶことで、まちをデザインする力が身につくことから「環境デザインコース」を、建築を取り巻く社会の課題や地域コミュニティと向き合いながらまちをデザインする能力につながることから「建築デザインコース」をサブコースとして「とてもおすすめ」としている。また、繊維・アパレル産業から見たまちづくりの発展が期待されることから「アパレルコース」をサブコースとして「おすすめ」としている。

以上述べた、推奨されるメインコース・サブコースの組み合わせ（2019年度入学生に呈示したもの）を表1にまとめた。

表1 推奨されるコースの組み合わせ（◎：とてもおすすめ、○：おすすめ、コース名称は略記）

サブ メイン	被服	アパ	生デ	環デ	建デ	まち
被服		◎	◎	○		○
アパ	◎		○			○
生デ		○		◎	◎	◎
環デ			◎		◎	◎
建デ			◎	◎		◎
まち		○	◎	◎	◎	

6コース制の生活環境学科では、メイン・サブの2コースの学びができるようになっており、当学科の新たな教育課程の大きな特色である。このことは、一つのコースで専門性を高めるだけでなく、他のコースの内容も学ぶことで、上述したように、自身の専門の中に広いバックグラウンドを形成することにつながり、複数の視点を持った人材として活躍できることが期待される。メイン・サブの二つのコースの履修が、社会でのどのような活躍につながるのかについてもイメージしてコース選択につながるよう、1年生に伝えている。

5-3 6コース制における開講科目

6コース制における開講科目を以下に示す。学生は、これらの科目に加え、一定数の単位取得が卒業要件になっている共通教育科目（学科や学年に関係なく、全学の学生に向けて開講されている科目で、200科目以上の中から選択する）も受講する。

以下では、2年次以降の開講科目について、学科共通科目と各コースの専門領域に関わる科目をコースごとに示した。学生には、全科目を、分野（コース）・年次・開講形態・ディプロマポリシーとの関係が一覧できるようにまとめたカリキュラムツリーとしても示している²⁾。ただし、各科目は、あるコースの専門領域のみに関連しているとは限らず、広い領域にまたがっている科目もある。

コース開講科目のうち、下線で示した科目は、コース生限定科目である。実験、実習、演習科目であり、メインコースの学生は2年次から受講でき、サブコースの学生は一部科目を除いて3年次から（メインコースの学生より1年遅れて）受講できるようにしている。コース生限定科目以外は、他のコースの学生も履修可能としており、自身が選択したメインコース、サブコース以外の科目も履修できることから、各自の興味・関心に応じた広い学びをすることが可能となる。

なお、コース生限定科目は、すべてのコースの科目を同じ曜時に開講し、どのコースをメイン・サブに選んでも、必ず履修ができるようにする。

1年次の科目

<基礎教育科目>

初期演習Ⅰ・Ⅱ、情報リテラシー、Oral Communication、

<専門教育科目>

生活環境論、基礎造形実習、生活科学、生活科学演習、ファッションビジネス論、服飾デザイン論、アパレル構成学、アパレル構成学実習Ⅰ、インテリアデザイン論、グラフィックデザイン基礎実習、環境共生概論、環境デザイン演習、住居学、建築概論、基礎・設計製図演習、建築設計基礎実習、まちづくり基礎演習

2年次以降の科目（基礎教育科目以外は専門教育科目）

<基礎教育科目>

生活環境英語、TOEIC 認定英語Ⅰ～Ⅳ

<学科共通科目>

生活文化演習Ⅰ～Ⅲ, 色彩学, 統計学, 統計調査演習, 生活美学, 阪神間文化論, 家庭生活論, 保育学, 調理学実習, 家庭工学, 食物学, 海外の生活環境研修Ⅰ・Ⅱ, 海外語学研修, 卒業基礎演習, 卒業研究

<被服学コース>

界面科学, 界面科学実験, 繊維学, 繊維科学実験, 繊維製品材料学, 繊維製品材料学実験, 衣環境学, 衣環境実験, 染色加工学, 染色加工学実験, 衣料分析法, 衣料分析実験, 品質管理, 消費科学, 消費生活論, アパレル設計生産論, アパレル生産実習A, アパレル生産実習B

<アパレルコース>

アパレル構成学実習Ⅱ, アパレル企画論, スタイル画実習, テキスタイルデザイン実習Ⅰ, テキスタイルデザイン実習Ⅱ, ドラフティング CAD 実習Ⅰ, ドラフティング CAD 実習Ⅱ, ドレーピング実習, ファッションコンピュータ実習, VMD 演習, 服飾史, 現代ファッション論, ファッションデザイン演習

<生活デザインコース>

生活デザイン論, 生活デザイン実習Ⅰ, 生活デザイン実習Ⅱ, 生活デザイン実習Ⅲ, 生活デザイン実習Ⅳ, デザイン技法Ⅰ, デザイン技法Ⅱ, デザインリサーチ実習, 視覚文化論, インテリアテキスタイル概論

<環境デザインコース>

人間工学, 人間工学実験Ⅰ, 人間工学実験Ⅱ, 環境計画Ⅰ, 環境計画実習Ⅰ, 環境計画Ⅱ, 環境計画実習Ⅱ, 環境計画Ⅲ, 環境計画実習Ⅲ, 環境リスク学, 福祉生活環境概論, 福祉住環境実習, 建築設備, 建築材料学, 建築材料学実験, 建築施工

<建築デザインコース>

建築計画学Ⅰ, 建築計画学Ⅱ, 住宅設計, 建築 CAD 実習, 建築・インテリア設計Ⅰ, 建築・インテリア設計Ⅱ, 都市・建築設計, 世界建築史, 日本建築史, 近代建築論, 現代建築論, 建築一般構造Ⅰ, 建築一般構造Ⅱ, 構造力学Ⅰ, 構造力学Ⅰ演習, 構造力学Ⅱ, 構造力学Ⅱ演習, 建築法規, 測量実習

<まちづくりコース>

景観論, まちづくり論Ⅰ, まちづくり論Ⅱ, フィールドデザイン演習Ⅰ, フィールドデザイン演習Ⅱ, フィールドデザイン演習Ⅲ, フィールドデザイン特別演習, フィールド・サーヴェイ実習, プレゼンテーション演習, 造園学・同演習

5-4 コース選択の指導

高校時代には、大学で学ぶことはほんやりとしか意識できていない。入学後に、それまで認識できていなかった大学で学ぶ内容を理解し、将来を構想することになる。本学では、大学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び、新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とした初期演習という初

年次教育科目が全学的に通年で開講されている。この中で、各コースで学ぶ内容や卒業後のイメージなどを、前期には概略を、後期には、各コースの学びに関連する分野で活躍中の社会人にゲストスピーカーとして話をしてもらおうことも含め、各コースのことを説明できる教員からしっかりと伝えるようにしている。また、1年次に開講される教科目は、それぞれのコースの学びの基礎になる。これらを通じて、各コースで学ぶ内容をしっかり理解してもらった上で、コースの希望をしてもらうことになる。なお、各コースには、メイン・サブとも定員を設け、希望者が定員を超えた場合は、成績により決定される。

コースを選択して専門的に学んだことの集大成として、生活環境学科の学生は、4年次に20数名の専任教員の研究室のいずれかに配属され、卒業研究(必修科目)を行う。また、研究室配属は3年次後期からなされ、卒業研究に先立ち、卒業基礎演習(必修科目)を行う。これらの最終的な成果は、卒業目前の年度末に、卒業研究展、卒業研究発表会で発表される。

6. 定員増の申請

生活環境学科の定員増とそれに伴う学科内の6コース制の構想が具体化する中、定員増の認可申請を行う準備に入った。定員増の認可を受けるためには、学生確保の見通しと人材需要の動向等、社会の要請を踏まえたものである必要があることから、直近5年の就職率、入試の志願倍率をまとめるとともに、学生確保の見通しの調査(高校生への進学意向調査)、人材需要の根拠となる調査結果(採用実績、求人実績のある企業・団体への採用意向調査)を、専門の調査機関により高校生、企業に対して行った。

これらの結果を受け、2018年6月に、文部科学大臣に、生活環境学科の入学定員を130名から165名にしたい旨の申請を行った。その必要性を示す趣旨(認可申請関係書類等から筆者が再構成)は次の通りであった。

これまで、衣から住までを連続した生活環境としてとらえ、理系と文系を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな専門性と創造的能力を持った有為な女性育成することを目的に教育を行ってきたが、卒業生はその専門と結びつけた進路を選択しており、就職率も高い。また、直近5年の志願倍率も高く、本学科への入学を希望する受験生の期待に応えるとともに、社会が求める専門性を生かした有用な人材をこれまで以上に輩出して行けることを確信するので、入学定員の増員を行いたい。

今回の定員増によって、教育課程の方針の変更は行わないが、これまでの3コース制から新たに3コースを加えた6コース制へと拡げ、より専門性に配慮した教育課程を編成することにしており、定員変更前と比較して、充実した教育課程とする。また、6コース制にあたっては、

主とするコースに所属して専門的な内容を履修するだけにとどまらず、他のコースの科目も履修できるようにし、これまで以上に時代に即応した幅広い学びを実現する教育を行う。

申請の結果、2018年8月28日に文部科学省のwebサイトにおいて、「平成31年度からの私立大学等の収容定員の増加に係る学則変更予定一覧」が公示され、認可の運びとなった。既に、認可の前提で広報や学生募集活動を行っていたが、2019年度入試は、すべての日程を、定員増を前提として行うことができ、学科の学べる範囲が拡充されたことや、定員が増加して入学しやすくなったと受験生が受け止めてくれたことから、志願者は前年度より増加し、入試における受験者倍率も、十分高い値となった。(推薦入試前期:5.1倍、同後期:5.3倍、一般入試A:5.2倍、同B:5.5倍、同C:4.0倍)

なお、生活環境学科の定員増とともに、併設している同系列の武庫川女子大学短期大学部生活造形学科の入学定員を160名から90名にする定員減を行った。

7. おわりに

生活環境学科のコース拡充は、単にこれまでの3コースを6コースに増やしただけではなく、履修の仕組みも変え、各学生がコースの専門的な学びをすると同時に、コースの壁を低くして広く学ぶこともできるようにしたところに大きな特徴がある。各学生はメインコースに所属する形はとるが、カリキュラムはコース毎に明確に区分されているわけではない。つまり、コース生限定科目以外は、どの科目も全学生が履修可能である。コース毎のカリキュラムではないということから、システム上、成績証明書には、「〇〇コース卒業」が明らかになるような記載はされず、学生自らが履歴書等でどのコースに所属し卒業したかを示す必要がある。

学生は、各自が履修するメインコースとサブコースが2年次から決まるが、どのコースもコース必修の科目は設けておらず、履修指導はしていくが、所属コース(メインコース)の主軸科目であるコース生限定科目を履修しないことも可能であり、所属コースに関係の深い科目をしっかりと履修せずに卒業することもできる。コースを選択し、その専門を深めることもできるが、様々なコースに関係の深い科目を広く学び、学生の自主性に応じて学びの中身を生み出すといったことも可能である。

上述のことは、当学科の学ぶ対象である「生活環境」を、その構成要素に細分化して専門領域を極めるように学ぶのではなく、総合的にもとらえていこうという学科設置当時の構想と合致している。様々な学びをしておくことで、成熟社会、超高齢社会、人口減少の時代、持続可能性、IT、AIなどのキーワードで連想される急速に変化している社会において、将来の変化にも対応できる人材の育成につながるのではないかと期待を抱いている。

生活環境学科の6コース制は2019年度入学生から始まった。この原稿の執筆時点では、2年次からの6コースに分かれてのカリキュラムは始まっていないが、今後、構想や計画の通りに進めることができるのか、コース生限定科目が、施設・設備の関係上、履修可能人数に限りがあるため、メイン・サブとも各コースに定員を設けたが、コース分けが順調に行えるのかなど、気になるところは多い。様々な制約がある中での仕組み作りであったので、思わぬほころびが生じることも懸念される。当然、年次進行とともに、何らかの修正をしていく必要があるだろうが、それらを逐次確認・解決していきながら、武庫川学院創立80周年を機に掲げられた「日本の女子大を、更新しよう。」にかなった、社会で活躍できる女性を社会に送り出すに、また、これからの女性に求められる女子大学にふさわしい質の高い教育がさらに進められるよう、努めていきたい。

注記

生活環境学科の入学定員増に伴うコース拡充については、水野優子准教授をリーダーとした、井上雅人准教授、鎌田誠史准教授、北原摩留講師、北村薫子教授、古濱裕樹講師、坂口建二郎准教授、山田由美准教授、山本泉准教授のワーキンググループメンバーが中心となり、学科長(筆者:牛田智)、幹事教授(黒田智子教授、岩田章吾教授)と連携しながら、また、学部長、副学長、学長、学院長のご指導もいただきつつ、学科全体で進められた。2019年度入学生から定員増を伴った6コース制を無事スタートできたことに対し、学科長として、ご尽力いただききた関係者に、この場をお借りして感謝したい。

参考文献

- 1) 吉田恭子:武庫川女子大学における衣料管理士教育の始まりと歩み、生活環境学研究, No.5, 8-13, 2017
- 2) 生活環境学科のカリキュラムツリー、
http://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2019/pdf/university/tree/u_sei_sei_tree.pdf
(2019/4/1)